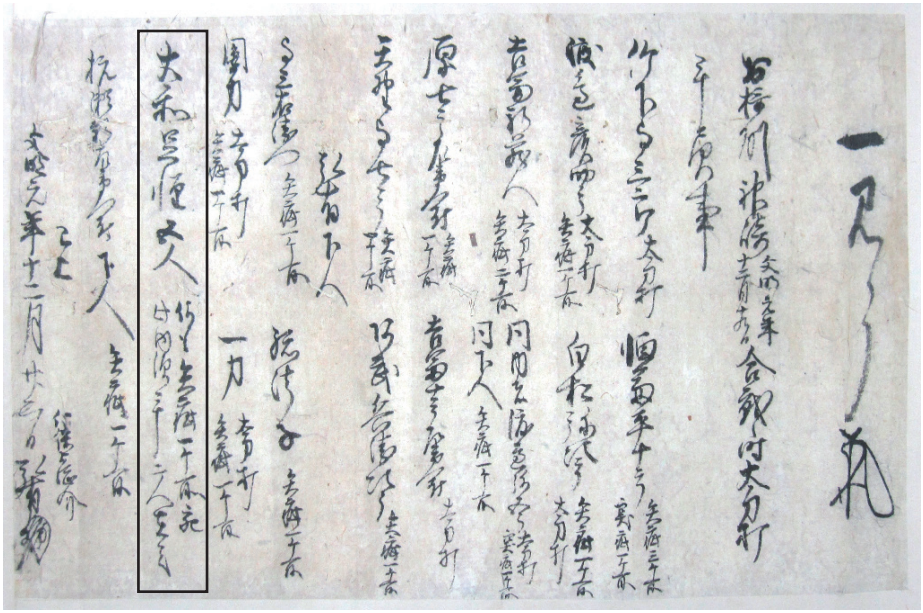
応仁の乱（足軽の活躍）



＊三浦家文書甲3（67）「仁保弘有合戦手負注文」
＊囲み部分は「大和足軽五人 何も矢疵一ヶ所宛，此内深手二人在之」

解　説

応仁の乱（1467～77）は，有力守護大名の家督争いと将軍の後継者争いが結びついて起こった内乱です。各地の有力武将が東軍と西軍とに分かれ，両軍あわせて約27万人といわれる兵力で11年間，京都を中心に東国と九州を除く全国各地で戦いました。この戦乱には，足軽という傭兵が動員されました。彼らは軽装で機動力に富み，集団で戦って，略奪・狼藉も働きました。

写真は，周防・長門・豊前・筑前の四か国の守護大内政弘が西軍方として応仁の乱に参戦した際に，配下の仁保弘有という武士が報告した文書です。摂津国神崎（現在の兵庫県尼崎市）合戦における負傷者の名前や負傷の種類と数が記してあり，その中に仁保氏に雇われた「大和足軽」（大和国の足軽）がいたことがわかります。彼らの内5人が全員矢疵を一か所ずつ負い，その内の2人は重症でした。なお，大内政弘が文書の右端に「一見了（いっけんおわんぬ）」という語句と花押（かおう＝サイン）を書いて，報告の趣旨を認定しています。

＊仁保氏（平子氏・三浦氏）は，周防国仁保荘（現在の山口市）を本拠とする武士です(2-1-2「鎌倉幕府の始まり」参照）。
＊三浦家文書には，応仁の乱に関する文書がまとまって含まれています（2-2-5「応仁の乱」参照）。

山口県文書館所蔵アーカイブズガイド学校教育編
目次に戻る